

第9回小中一貫校準備会議

議事録 要旨

1. 開催日時 平成28年7月21日(木) 19:00~21:00
2. 開催場所 生駒北小中学校 多目的室
3. 参加者 小柳和喜雄(奈良教育大学教職大学院教授)
向井一(保護者代表) 吉岡浩(保護者代表)
西井清司(自治会代表) 有山喜八郎(自治会代表)
小中一弘(生駒北中学校長) 山本均(生駒北小学校長)
松島誠周(教職員代表) 林貴行(教職員代表)

4. 開会あいさつ 峯島部長より

5. 参加者ならびに事務局の自己紹介

6. 各所属からの報告と今後の予定

座長：それでは各所属からの報告と今後の予定に移る。

参加者：資料①について、小中一貫教育が始まるに向けて、これは3月に保護者向けに配布した文書である。昨年9月から中学校がこちらの方に引っ越してきた。当初は準備段階なので小中別々の形で授業等を進めていたが、生活する中で一緒にしたらどうかということがたくさんでてきた。例えば式などは一緒に行ったり、中学校の生徒が取り組んでいるものを小学生に見せたり、できるだけ交流を図る話し合いを行ってきた。今思えば、そのころから、一貫教育は始まっていたのではないかと。

小学生がかなりあいさつできるようになってきた。変わってきた感じを受ける。小学生が中学生を見て学んでいる部分で、一貫教育のいい部分でもある。一番の目的は中一ギャップを防ぐためでもあるが、学力向上もある。この点については、今後、検証もしていきながら、今行っている教育を改善しながら進めていきたい。

資料①の真ん中辺りを見ていただくと、話し合いの進め方という形で、夏休み中の8月26日に小中教員が集まって初めて会合を持った。そこから何回か校内の推進委員会を持ちながらまずは同居したときの校時や施設の使い方について当時はそのような内容の話し合いだった。そのうち、次の年の一貫教育のことに向けて具体的に話し合いを持っていった。そして推進委員会で話し合われたことを職員会議で図っ

ていくという形で進めていった。ここでは6回までの内容が記載されている。裏面は学校の目標について記載されている。目標については小学校と中学校の部分をとっている。一人ひとりが輝き、笑顔いっぱいの学校にしたい。学校へ行くのが楽しいと感じる学校づくりを進めている。校訓については中学校のものをそのまま取っている。最終的に9年間でこういう子どもに育てたいというのが目的なので、中学校の校訓を取ってはどうかという意見を採用した。基本方針については、県の教育委員会、市の教育委員会の方針を、基に設定した。

次に資料②について。グランドデザインと目標を決める前に、子どもの姿について小学校中学校教員全員で一度今の子どもたちの実態はどうかということ話し合った。ワークショップの形式で話し合った結果、資料②に記載されているような姿が見えてきた。明るく元気で素朴である、男女仲がいい、など。ただ固定化された形で人間関係において一度トラブルが起こるとそれをずっと引きずってしまう。これは課題の部分である。あと競争心が不足しているのではないかなどの課題も出てきた。外部の評議員、地域、保護者からいただいた学校評価を取り出していくと、教員が話し合ってきたことと考えが同じだったので、そこから9年間で身につけたい子どもの姿を考えた。学力向上、自主的な学習習慣、コミュニケーション能力を養う、望ましい人間関係の確立、自立心、地域に貢献する子どもを作っていく。その結果、どのように教育活動を行っていけばよいかを考えていった。

以上、資料①②のような形でスタートしたが、申し訳なかったのは、保護者の皆様には4月になってどのような授業をしてどのような形で行っていくのか具体的な形をなかなか示すことができなかったことである。人事がきまらないと、だれがどの教科で小学校へいくのか、どんな交流ができるのかなど具体的に示すことができなかった。4月になって人事も決まり、授業数なども決まってきた中で、どんな学習ができるのかを記載しているのが資料③である。小学校、中学校が基本的には残っている。法的には生駒北小学校、生駒北中学校である。別々の教育課程に基づいて進めていかなければならない。その中で乗り入れ授業を現在行っている。小学校専科が中学校で教えている。小学校1年生から中学校3年生まで全てを教えている。逆に中学校から小学校に、算数5、6年生、英語5、6年生、体育5、6年生、図工の3年から6年、中学校がTTで入る場合と主で入る場合があるが、合計26時間入り込んでいる。図工・美術については小学校3年生から中学校3年生まで同じ中学校の教員が1名ですべて教えている。これも系統性をもって指導するということが理想の形と言える。小学校は基本学級担任制である。そこに中学校の教員がTTで入り込む。中学校は音楽の専科の先生に小学校から来てもらっているが、独自で数年前から二年生については少人数指導、これは一つのクラスを二つに分けて数学、英語、理科、技術、美術の授業を行っている。これは習熟度ではなく、単に学級を二つに分けている。習熟度については今後また考えていきたい。今のところそのつもりはない。それから昨

ら少人数学級編成を3年生で行っている。本来は一クラスだがこれを二つのクラスにして生活している。ただ二クラスにすると、34～35名の学級を分けると16～17名になってしまうので、状況に応じて体育や実技関係は合同で行うときもある。

授業時間については小学校は45分授業で、中学校は50分授業である。そうなる、小中学校の教員がお互いに授業へ行く関係上、ずれが生じてくる。そのため時間割を組みにくくなるということから、5、6年生については50分授業で行っている。これも特色の一つと考えている。今年から中学校では昼の時間に学びタイムを行っている。これは掃除が終わって5時間目の始まる前に簡単なテキストを行っている。早い生徒だと5分ほどで終わってしまう。早くできたものは読書をしている。これは習慣づいており、落ち着いて行われている。いい習慣になっていると考えている。今この校舎でできることはこれぐらいであるが、今度新しい校舎になったときはまたいろんな授業形態を行うことができるのではないかと考えている。この後、山本校長から補足と今後の予定について説明していただく。

参加者：2月19日に育友会の評議委員会で代表者の保護者代表約30名に説明をした。そして資料①を3月1日に保護者全員に配布した。それから4月に乗り入れ授業が決定したので資料③を保護者に示した。その後、5月20日に保護者全員を対象に保護者説明会を行った。

小中一貫教育を始めるにあたり、小中一貫教育全国サミット in 奈良が平成28年1月29、30日に奈良で行われたので、一日目は富雄第三小中学校にほとんどの教職員が視察に行った。特に富雄第三小中学校では乗り入れ授業が図工6年、外国語5、6年、ICT活動3～6年で行われており、参考になった。もう一つ参考になったのは合同行事である。行事を小中合同で行うのはなかなか難しい。富雄第三小中学校では始業式、終業式、修了式、避難訓練、運動会を合同で行っていたが、合同入学式は本校でもできるのではないかと考えている。

本校は学力の向上が課題である。それで、中学校教員の専門的知識を生かす授業を行うために、乗り入れ授業を取り入れた。中学校教員には非常にご苦労いただいている。慣れない小学生に指導するのは苦労が多いと小学校3年生の図工の授業を見て感じた。しかし中学校の教員が粘り強く授業を行っている。

中学生には志望校合格というゴールがあるので、自分から進んで学習する習慣を小学校から身につけさせなければならないと強く感じている。奈良県では3月に小学校4年生向きに「家庭学習の手引き」を出したが、本校でも「自主学習の手引き」を全家庭に配布した。また、中学校はテスト前の1週間、部活動が休みになって勉強に集中する。そこで小学生もその期間を「トライウィーク」とし、家庭での自主学習にチャレンジさせた。

学力を向上させるには学習意欲を高めることが不可欠である。そこで本年度はICT教育についての研究を進めている。新しい校舎ではプロジェクタが各教室に配備さ

れるなど、施設設備が充実している。そこで、平成 28 年度生駒市の ICT 研究の教育開発校の指定を自ら受け、それにもない電子黒板 1 台、タブレット 7 台が 8 月下旬に導入されることになった。また平成 29 年度奈良県放送教育の研究大会会場校として、本校は新校舎で授業公開を行う。それに向けて 6 月に全教員が NHK for スクール ICT 活用ワークショップ in 奈良に参加し、6 月 29 日には授業実践について校内研修を行った。今後は 8 月 23 日に県教育研究所の「授業における ICT 活用訪問講座」を受講し、タブレットと電子黒板の研修を行う。そして、10・11 月の 2 回にわたって、タブレットを使った授業研究、NHK for スクールを使った授業研究を行って研修を深める予定である。

この 1 年間を振り返ると、小学生と中学生と一緒に学校生活を送ることそのものに意義があったと感じている。中学生が手本を示したり、優しさを見せてくれたりするので小学生は中学生にあこがれている。学習習慣の確立においても中学生がお手本になっている。

今後は地域を愛する気持ちを育てていきたい。中学生が受けているサイエンス授業を小学生も受けられるよう市教委にお願いしている。また、合同開催行事を増やしていきたい。本年度力を入れているのは異学年交流である。運動会や音楽の授業では中学生と小学校 6 年生が交流している。

9 年の年齢の開きは非常に大きい。先日、終業式で子どもたちに話をしたが、小 1 から中 3 までの子どもに共通する話材を見つけるのは難しい。また、中学生には口頭で伝えられても、小学生には保護者に文書で伝える必要があることが多々ある。小学校では学校からの配布物があるのに、中学校では無いといった事態が過去にあったので、できるだけ揃えるよう、話をしている。

座長：ここまでで何か質問はありますか。

参加者：TT の指導と ICT について教えてほしい。

参加者：小学校では、少人数指導加配で、教員を県から 1 名多く配置してもらっている。この配置については、少人数学級編成で中学校 3 年生のように学級を二つに分けて指導することもあるが、チームを組んで二人で 1 つのクラスの授業を行う場合もある。一人が一斉指導を行い、もう一人が机間巡視して特に個別指導を必要とする児童を見て回っている。チームを組んだティームティーチングのことを TT と呼んでいる。

ICT 教育とは、パソコンや書画カメラなど情報教育機器を使って行う教育である。書画カメラとは、実物をすぐにテレビ画面やプロジェクタに映すことができる機器である。タブレットは、写真や動画をとってみんなで情報を共有するために使われる。体育の鉄棒の授業で、技を行う姿をその場ですぐ見てうまくできるコツを考えることができる。

参加者：市に伺いたい。今ある機材は、机やイスは例えば 8 自治会の会合を月 1 回行っているが、コピー機がなく印刷に時間を要している。新たに買う財力もなく、できたら今

あるものが学校で使わないのであれば、地域で使わせてほしい。

事務局：備品類については使えるものは、すべて次の学校に持っていくことになる。地元に使ってもらうのは無理。

参加者：そこを1点だけでも何とかしてほしい。平成24年の小中一貫校だけでなく、高山スーパースクールゾーン構想を市で打ち上げされ、それから8つの自治会をまとめていかないといけないのでぜひひとつでもほしい。一つだけほしい。

事務局：申し訳ないが、学校にあるものは教育用備品なので地域の自治会などで使用するというのは種類が違うという位置づけが変わってくるので、それはそれで別で考えていただきたい。あまるものはない。

参加者：4月からの取り組みの中で、小学校は中学校にあこがれているという形が見られる中で、いじめ的なものはなかったか。

参加者：いじめについては毎年アンケートを取っている。今年度いじめという重大なものにつながる件数はゼロで報告している。ただ、子どもがいじめと書いたらこれはいじめになるのだが、内容が意地悪と考えられるもので、消しゴムをとられて向こうへ持っていかれたとか、継続的ではない。突発的にちょっと意地悪をするというような形のものはあるが重大なものはゼロで報告している。

参加者：それならば結構。9年間過ごす形になるので、特定の子どもが継続的なものになるのが心配である。

参加者：小学校と中学校が一緒になった利点の一つとして、児童と生徒、月1回の生徒指導部会が定期的にある。また必要に応じて持つが、持たなくても職員室の席の後ろに中学校の教員がいるので、小学校の時どんな様子だったのか、小学校の時は性格的な面でこんなところがあったなど、そういう会話は頻繁に行われるので一貫した指導や共通理解が取れるのが強みである。

座長：続いて育友会の方から報告願います。

参加者：小中一貫校がスタートするというので、4月から育友会をひとつに統合し、5月20日に第1回総会を開催した。育友会行事、草刈りなどの奉仕作業を合同で行うことになっている。体育祭が10月1日に小学校、中学校のグラウンドが使えないので、生駒北スポーツセンターのグラウンドで開催される。歩いていくわけにはいかなないので、育友会としてバス、乗用車の移動がスムーズに行くように話し合い協議を行っている。学校にまかせきりではなく、一緒になってすばらしい学校づくりに取り組んでいるところである。

座長：質問はないか。ないようなので自治会から報告願います。

参加者：昨年12月11日に地域学校に兼ね合いのあるところで、第2回ワークショップを開催したそのときに4つの論点を決めて、そのうちのひとつである高山スーパースクールゾーンを論点として計上した。この高山スーパースクールゾーンの関係については、昨年の9月に8自治会の方から市長の方に要望を出している。その答えを

12月11日ワークショップ当日に小紫市長から手渡しでもらった。直接いただいて感謝し、どのような形で事務の方から具体的な展開があるのか、ずっと待っていたが、3月になっても具体的な動きがなかった。3月に年度の締めということで計画の進捗について教えてほしいと市の方をお願いしたところ、市のほうとしては、大きな組織変動があるので、今話し合いをしてもあまり効果が期待できないので、新たな年度になって人事関係が落ち着いた段階で話し合いを持つことになった。5月25日に進捗状況の説明を聞いた。一方的に聞いただけ。改めて対話する機会を設けてほしい。2点ある。小中一貫校ができたことで通学路の環境の充実を求めた。進捗状況を聞きたい。地域としては小中一貫校だけでなく、子ども園と給食センターワンセットで対話できる機会がほしい。いきなり情報がでたり、でなかったり地元がわからない状況で進んでいる。3点セットで対話してほしい。

事務局：通学路のことについて次のところで説明させていただく。

参加者：3点セットの説明会についてはどうか。

事務局：平成24年から高山スーパースクールゾーンを小中一貫校、北俣こども園、高山幼稚園を統合していただくという三方よしということで始めた。それは今も変わっていない。このあと小中一貫校の場所が中学校になった。そしてこの小学校用地、ここにこども園と給食センターができる。場所が入れ替わったが、最初のパンフレットで作ったゾーニングについてはほとんど変わっていない。当初タウンミーティングをしたり、皆さんがご存知のようなことの経過の中で小中一貫校が完成後、小学校を解体して、北小跡地の事業開始がある。今回期せずして大きな組織改革があって、この春から、幼稚園と保育園が教育振興部に入ってきたので、今まで以上に風通しがよくなったと考えている。いよいよ工事が終わって、小中一貫校が新設校舎でスタートした後、ここのことについて、久保自治会を中心にこの跡地であったり、あるいは高山幼稚園のことであったり、そういう話はしていこうと考えている。ただゾーニング自体については変わっていないので個々の保育園、給食センター、一体としての話であるとかは、またテーブルを作ろうとは考えている。まだ具体案はないけれども予算のことや議会の皆さんの説明や意見もあるので、タイミングを見計らって新たにこの跡地、あるいはポスト小中一貫校については進めていかなければならないと考えているので、もうしばらくお待ちいただきたい。個々の通学路であるとか、形態につきましては、担当課もあるのでまたご相談いただきたい。

参加者：久保自治会を中心にといわれたが、8つの自治会とも協議してほしい。小中一貫校というのは学校ができてからも学校と地域とは話し合う機会がある。しかし、こども園と給食センターについては、こども園は今は公の幼稚園と民間の保育園という状態だが、新しい組織になると、民になる。給食センターについても生徒たちの給食なので、なおかつ民間会社が入る可能性がある。全く四角い状態で地域とのかかわりが見えない。地域としては今まで小学校のエリアでは地域と学校とが色々なかかわり

があって地域の特色であるカラーが生まれてきた。それが新しい 2 つの筒ができてしまえばそういうつながりというものがなくなってしまう。そういう危機感を地域は持っている。そのことを話し合いたいが、例えばこども園と給食センターの懇話会、その中ではほとんど細やかなより具体的な話し合いしかされていない。なぜそこで例えばこども園の敷地は県道側になったのか、いったん入ったところに給食センターができるのか、あるいは幼稚園の敷地がどのように残っていくのかに対しては、幼稚園は不使用の状態であるということで、この前課長から計画の進捗を聞いた訳だが、全く対話がない。市長へのお願いの時には、この地域は非常に対話を重視して地域力を育てたところだから、そういう意味で新しい施設ができることによっても、そういう空間を設けてほしいということでお願いしたが、それなりの文面をいただいている。小中一貫校についても多目的室をできるだけ地域に開放してほしいということでお願いしているが、先ほどの話から、小学校に一つ、中学校に一つあったのが、一つになることによって、非常に使い勝手に苦労されているようだ。そこに輪をかけて地域が貸してほしいというわけにはいかないの、別なところに空間がほしいということも感じている。今そんなことを言っても仕方ないので、とりあえず対話する時間と場所を考えてほしい。

事務局：今は小中一貫校準備会議の中なので、長くは言えないが、子ども子育て会議、高山こども園会議、そして給食センターの懇話会、地元の方に来ていただいている。また議事録も出している。形態としては同じように地元の方に来ていただいているので、その方々に申し訳ないという気持ちにもなるので、有山さんにも入っていただいていたらよかったのかと思う。

参加者：そういう意味ではない。

事務局：この話が長くなってもいけないので、先ほども言ったように新たに跡地と高山幼稚園とポスト小中一貫校についてはまた新たなテーブルも考えているのでその時にもう一度お話しいただきたい。

参加者：配置としては中学校エリアに小中一貫校、小学校エリアにこども園と給食センターは了解している。ただ、具体的なところについては全く話を聞いていない。こども園と給食センターの懇話会の中でこういう話を自治会代表の方が話を出しても受け入れてもらえなかったと聞いている。そんなアウトラインではなく、もっと細やかな話をしてほしい、そのような機会だと言われたと、主旨が違えば機会を設けてほしい。

7. 工事の進捗状況と今後の予定について

座長：学校、育友会、自治会からの報告をいただいたので、次に進捗状況と今後の予定についてお願いします。

事務局：工事の進捗状況からお伝えします。昨年第 8 回の会議が終わった後、旧中学校校舎の解体工事に着手し、3 月ごろ終了した。そのあと基礎工事も含め新校舎建設に着手

した。前の写真を見ていただいておりますように、今現在、1階のコンクリート打ちが終って、2階部分を作っているところで外側からも見えて来ている。これから3階部分を作っていく、大体の校舎の形が出来上がる。校舎については順調に予定通り進んでおり、2月の終わりを目指して工事を進めている。3月の頭にはおおむねの工事が出来上がる。

これと並行して、プールと体育館の工事を行っている。プールについては現在中学校用ということで、深いプールになっている。小学生も使えるように浅い部分を作っていくということ。ほぼ全面改修ということでプール槽すべての入れ替えを行う。体育館につきましては床の磨き、塗装のやりかえ、それと外壁等の改修を行っていくことで、リニューアル工事という形になっている。

それと、もう一つ先ほどの質問に入ってくるが、校舎の北側の高山あられの前の道、北側の道路について。最近交通量が多く、道が狭いということで、子どもたちが危険だということもあり、校舎の敷地を一部取り込んで歩道を設置するというので、安全の確保を図っていく予定。運動場については、新しい校舎が出来上がる前、仮設の進入路を閉鎖した後に整地をして新しくきれいなグラウンドに戻すということで工事を進めていく。もう1点通学路について、県道の今ちょうど北倭保育園のところ、南に下りたところ、ちょうど県道の橋があるところが非常に歩道がないというか狭い部分がある。北から来る子どもたちが通るのに危険だということで、ひとつは県にお願いして、広くならないかと交渉中である。ただし、片側が川だということもあり、なかなかうまく広げることができないので、もう一つの手段として、北倭保育園の間の道でここにもともと市の道路がある。幅が車1台通るぐらい3m～3m50cmぐらい。ここを舗装してちょうど法楽寺の山へつきあたる。そこから南へ降りてきて、中学校の前まで。これも市道。これを今現在あぜ道みたいになっているが、だいたい2mぐらいの歩く部分を確保してつくりかえたい。今進めているところ。ただし地権者の方もいらっしゃるので、おおむねの話はできているが、これから地権者と詳細について話を詰めていき、来年の4月までには整備していきたい。新道について、ちょうど新しい学校ができる校門の部分については、信号の設置を要望中。いい返事はもらえていないが警察の方で検討中。もう一つ工事用の進入路あたりに新しくバス停を設置する計画がある。それについては奈良交通、また道路を管理している郡山土木事務所と設置の方向で協議中。

座長：質問ありますか。

参加者：川の東から西についての具体的な通学ルート、今は横断歩道橋と出店橋だが、具体的に横断する場所についてはどうか。通学路は決まっていないのか。

参加者：一番の課題は先ほど説明があった部分で、多数の子どもがいて一番の課題だった。

川よりも東側の久保地区の子が来ているルートについては一番安全なルートを考えて、これから保護者とも相談しながら考えていく。官方地区については以前と違って

いたところ、消防署のところは安全かと考えている。消防署の手前あたりに歩道があるのでそこを渡ってくるのが安全かと考えている。これからまた詳しく見ていきたい。ひかりが丘の子は、北倭保育園からの進入路が一番安全と考える。

参加者：先ほど2mぐらいの道を整備されると言っていたが、もっと北側の方に溝はあるのか。現地を歩いていたら、同じような幅でひかりが丘から出てくる道路に接する溝があるかどうか。

参加者：それもあるが、一番懸念していたところが解消されたので評価したい。

参加者：高山製菓の前のところ、住宅が建っていたが今更地になって高山製菓の新たな駐車場ができると聞いている。車の動きが複雑になることが懸念される。この市道自体も朝夕の通勤時間は結構な交通量があると思うが、今後検討していかなければならない。それと水路沿い、市道沿いに民家がないので、新たな死角になる。防犯に対する見守りも必要。もとの消防の北分署。あそこだけが川の西側で歩道がない。川沿いのところについては張り出し歩道で応急処置的な歩道があるのだけれども、安全な歩道網の充実をタウンミーティングの時にお願ひした。前市長から北分署の跡地についてはセットバックするから歩道はできる。市の方の土地だからという話が公の場所であった。確認いただいてそれをつけることで正木さんのところまで歩道がつながることになる。工事してほしい。

事務局：北分署の前の部分については所管の方が変わってくるので消防の方にも伝えておく。前市長の話についても確認する。

参加者：黒添池から庄田の間の側溝のふたをする話が県の方であったと思われるがどうか。

事務局：話は聞いている。郡山土木と検討中。平成29年の4月に間に合うかわからない。ふたをする話は聞いている。

参加者：橋のところの電気屋の前のところだが、月1回立っていたが、危ない状況である。交渉中とのことだが、通学路のことなのできっちり整備してほしい。通学路は教育委員会で考えてほしい。

座長：他に質問はあるか。

参加者：163号線の高山大橋のところから、新たにバイパスが開通した。新しい道ということもあり、車がスピードを出して走っている。事故もあった。最高速度の標識がないので、60キロということだが、60キロ以上出ている。子どもが巻き込まれる可能性があるので安全性を確保する工作を考えてほしい。7月の初めに小学校で通学路点検を行った。個々のケースについて改善の意見が出ているので検討してほしい。小中で校区が少し違うので、細かいところの点検改善を願ひたい。

参加者：新道の歩道の幅についてだが、今現在歩道としては十分だが、自転車は車道を走っている。自転車は危ない。自歩道にすると通学路の子が危ない。何らかの事故が起こらない対応をしてほしい。

参加者：聞いた話だが、警察で規制の標識設置は考えているらしい。それから新しくできた

新出店橋の西詰のところ、そこは以前から言っていたが、安全な設計速度は30キロであり、それによって設計されている。それ以上出すといろんなところに安全が犯されるような状況になる。たまたま新しい道の方は南行きが主になって、北行きが元の県道西側の道路になっている。そのため安全性が保たれている。信号が必要だろう。交通が分散しているのでメリットもあるが、できたものを尊重しながらつかっていくことが大事。

座長：ありがとうございます。工事の進捗状況と今後の予定のかかわりの中で、通学路に係っての安全が具体化されてきている中で、ご意見をいただいていたいい機会であった。半年振りに開かれた機会であるが、今は次の環境が出来上がるまでの話し合い。今までの中で確認事項などあるか。

参加者：小中一貫教育の内容については説明してもらった。しかし、学校の工事の進捗状況、通学路、など保護者は知らない。保護者に対しての説明する場を設けていただきたい。教育委員会の方から説明していただきたい。

事務局：今までの懇話会や準備会議の中で、組織の中で話してきたことを各団体の皆さんに伝えていただくルールができています。今回のことも今日初めて伝えたことも多かったが、今までと同じようにまずは準備会議便りや、議事録を早くご確認いただき、ホームページでアップするとともに、その後、回覧で自治会と保護者にお知らせする。説明会もいいかと思うが、まずは文書を見ていただき、その後相談してもいいと考えている。今までもそのようにして、透明性、即時性に基づいて特にこの懇話会、準備会議については行ってきたつもりであり、その点ご理解いただきたい。

参加者：ここで聞いたことはいろんな場で報告していきたい。必要に応じて相談には乗っていただきたい。

8. その他

座長：その他も含め、確認しておきたいことはありますか。

参加者：小中一貫教育を始めるにあたって、5月の初めに保護者に説明があったが、できれば年度が始まる前に説明してほしい。私立に進むことを考える保護者もいる。

参加者：人事がからむので難しい。かなり市から配慮してもらったことであり、ご理解いただきたい。

事務局：学校の方針は資料①②であげられている。年度ごとの乗り入れ事業などはそのツールと考えていただきたい。

参加者：育友会や評議委員会で今後、新しい情報は提供していきたい。

参加者：学校、行政が動いていることに敬意を表しているが、地域にも余裕がない。そんな中で連携の努力を惜しまないと、いいものはできない。それに引き換え、子ども園と給食センターへの気配りのなさがさびしい。

座長：他にありますか。資料①②③の中に、立ち上げの時から皆さんで考えてきたことや

話し合ってきたことが生きていると感じる。できる限り精一杯動いており、学校から手ごたえも感じていると言われている。これはよいことではないか。そして本日、通学路など今後の課題も確認できたのではないか。司会をお返りする。

9. 事務連絡

事務局：本日の議事録はホームページに掲載させていただきます。準備会議だよりを後日配布させていただきますので、よろしく申し上げます。これを持ちまして、第9回生駒市小中一貫校準備会を閉会いたします。ありがとうございました。